

## 第77回新制作展 鑑賞会

五十嵐画伯の展覧会は、実に有意義な鑑賞会の一時でした。

なんといっても我が磐高同期生が、日本の美術団体のメジャーである新制作協会の年1回開催の展覧会(新制作展)に“10年連続入選”という快挙を成し遂げた功績は、

在京の我らにとっても大いなる誇りであり、大いなる自慢のネタ話でもあります。

今年で77回目。同協会は、戦時体制下に小磯良平や猪熊弦一郎ら若き青年が既存の団体(日展、二科展など)を尻目に、新たな自由と純粹さをもとめた画風を求めて立ち上げた伝統ある団体で、同会に入選するには、なかなかハードルが高く、美大卒の連中でもなかなか入選が難しいとのこと。

従って入選者数、受賞者数も少なく、作品の大きさ、質などから考えてもそのレベルは非常に高いといえますね。

あの画家の三岸節子、荻須高德らも新制作協会会員なんですよ。

だからこの会に“10年連続”、ということは、いかに凄いかということ。

そして「ゆくゆくは、『協会賞』か『新作家賞』を一つでもとって名誉ある当会の『会員』のなることが今の俺の夢」(五十嵐言)なんだそうなの。

他の団体は、5回ほどの入選歴があれば会友、あるいは会員になれるそうだが、それに比して当会は10回入選でもまだ遠い道程の由。

なにしろ五十嵐君は、40歳代から絵に目覚め、武蔵美大に通信学生として学び、そして卒業。

だから現在(66歳)に至っては、年下の審査先生が多く、その意味でも彼は遅咲きではあるが、「やりがいがある」と(当会場で)目を輝かせておりました。

7年後のオリンピック東京開催頃には、彼は、めでたく当会の『会員』になっておられることや、切でありますね。

五十嵐君の展覧会に(あいにく休館で)行けなかった諸君、残念でしたね。

一部から7月の銀座個展で観てるからいいや、と合点してはダメです。やはりこの大きな展覧会場で彼の作品と他を比較し、そして会員(先生)作品にも触れ、当会のもつ威厳さを改めてたっぷり時間をかけて鑑賞していただきたかったです。

(小生の場合、2時間30分、五十嵐君の説明付きでしたが)。

まずは、我ら、今後とも同君のますますのご健闘とご活躍を、お祈りいたしましょう!

Ps: ①小名浜から門馬君が駆けつけてくれた由、そして美味しい酒と心づけをされたって?

なんと太っ腹な、なんと美しい心遣いであることか!

“小名浜人”として嬉しい限りです。

門馬君、ありがとう!(俺も飲みたかった!)

②本件は、9/25(水)『だっぺ会』代表として、五十嵐画伯の展覧会参加。そのあと、神田大衆酒場で添

田、金成、上面、駒橋、五十嵐、山本の計6人で懇親を催し、主に添田君の情報のもとにメッセージを綴った次第。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

山本 茂雄（記）

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※